

平成 23 年度

事業所名 : グループホーム 城山の杜 (1丁目)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392900031		
法人名	株式会社信樹会		
事業所名	グループホーム城山の杜 1丁目		
所在地	〒028-1131 岩手県上閉伊郡大槌町大槌15-5-1		
自己評価作成日	平成24年1月16日	評価結果市町村受理日	平成 24年 4月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0392900031&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 24年 1月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 利用者とその家族との間を当ホームが点となり線となって連携を取り持ち、さらに地域の皆さんに支えられながら暮らしの機能を図る。
- 利用者が安全に暮らせるよう環境面に配慮している。
- 馴染みの関係を断ち切ることなく落ち着いて暮らせるよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは小高い山の裾野に広がる敷地に立地し、日中は日差しが入る環境の良いところにある。3・11の震災時は、ホームは海岸から離れているが、近くの大槌川を津波が逆流し間近に迫ってくる海水は、一時は目の前まで押し寄せ危機を感じる中で、管理者を中心に冷静に対処している。大槌町は壊滅的な被害を受けたため、職員はホームに来ることができず、数日間はホームにいた職員のみで2ユニットの利用者の安心と安全のため24時間必死になって守りきっている。日頃は火災を中心とした防災対策であったが、今回の震災経験を踏まえ食糧の備蓄や、停電対策の自家発電設備に生かしているが、防災対策の視点を広げなければとされている。なお、当ホームは、日頃から理念の実践を図るため、具体的かつ詳細な実践目標を定めて、それを実行し、結果を評価し、話し合っているが、これは管理者のしっかりした運営姿勢とスタッフの全面的な信頼のうえで成り立っている事業所であり期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム 城山の杜 (1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・月1回の全体ミーティングを開催する事で理念の実践の教育を共有する努力をしている。 ・玄関や事務所等に掲示して実践に向け職員全員で日々、取り組んでいる。	入居者の「意思・人格を尊重する」、「安全・安心・衛生を図る」、「家族・地域との連携を密接する」を理念とし、理念を反映し実践的に取り組むため、毎年職員アンケート調査や話し合いを行い詳細な実践目標を定め、細やかで気配りのある支援に努めている。	理念の実践化を図るため毎年度、職員アンケートや話し合いのうえ、実践目標を定めているが、具体的で、分かりやすく記述しており、素晴らしく引き続き取り組まれることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・家族や地域包括支援センター等へ広報誌を配布したり交流を深めている。 ・時々、近所を散歩する等して近隣の方に名前を覚えられたり顔馴染みの入居者も多い。	新興地域で自治組織はなく、地域の集まりもないが、ホームの呼びかけでホームの防災訓練への参加要請や、農園作業の手伝いをお願いしたり、またパーティを開き地域との交流を深めたり徐々に地域とのつながりが深まっている。震災では大きな被害は免れたが、これを機に運営推進会議等を通じて地域とのつながりを深めたいとしている。	地域コミュニティを深めるには地域の自治組織が大切である。昨年も記述しているが、今後ともホームは地域拠点の位置づけとして近隣の方々に呼びかけて、また今回の大震災を機に粘り強くコミュニティづくりに関わっていくことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症に関する職員教育を研修会での研修状況を広報誌に掲載して周知している。 ・家族を招いた行事等で交流となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・利用報告等と運営推進会議で行い推進委員の方々の意見を聞いてサービス向上に努力している。	震災等により運営推進委員を一部交代し新体制となるが、特に地域との連携の強化を図りたいとしている。また、改めて運営推進会議の機能と役割について理解を頂き、従前にも増してホームの応援団として意見、提言等を頂き、運営に反映したいとしている。	震災等を踏まえ運営推進会議の支援、協力など、その重要性は増すものと考えことから、安心、安全など様々の分野で意見・提言等をいただくなどの工夫に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・定期的に市町村担当者へ訪問して情報交換等を行っている。 ・地域包括支援センターの職員や市町村担当者と話し合いを行う。	震災等の対応のため、情報交換等の機会が少ない時もあったが、町担当者や包括支援センターとは入居希望等の情報交換や連携、協議しており親身に相談に乗って頂き協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職場内で身体拘束委員会を設置して1年に1回身体拘束に関する研修を全職員対象に行っている。 ・利用者を大切に考えながらケアに取り組んでいる。	ホーム内の研修を通じて職員全員が身体拘束の弊害を理解している。家族から「要望カード」を提出していただき、「不都合なことがあるかどうか」等を聞いたり、直員には「利用者の尊厳」を基本とする旨を全職員で話している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・社内研修等で研修会を行う等して身体拘束廃止に向けた取り組みを行っている。 ・外部研修等に参加する事で虐待に対して意識を持ち防止する努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・外部研修に参加して権利擁護に対して理解を深めて関係者の意見を聞いたりして支援の参考にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・介護支援専門が契約締結時、家族に利用申込書も記入して貰い状況等の聞き取りを行い説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者家族にも運営推進委員にもメンバーに入ってもらい要望や希望を具申する機会を持ち反映している。 ・利用者や家族の意見に耳を傾ける。。	利用者・家族会からの「要望カード」の活用や、運営推進会議に出席した家族等から、更にはケアプランの説明時等を活用して意見、要望を聞き、例えば車椅子への座布団の準備や床ズレ防止のためのエアマット準備など、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一応月1回のミーティング時に意見を聞く機会を設けているが、発言がない。違う方法を検討したい。	これまで9つの委員会を3つの委員会に統合再編し、職員意見を反映しやすくしているほか、月例ミーティングを開催しスタッフ間の意見を聞く機会を設けているが、意見が少なく対応の在り方を検討したいとしている。	前回の外部評価等を踏まえ委員会を統合再編し、職員の負担感の軽減と多様な意見交換をしやすい環境を整備したことに今後を期待するとともに、職員全体の率直な意見集約の取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜勤が20時～8時、2時間休憩であったが、津波で町が流され街燈がなくなり無用心なので16時より9時までと変更する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1ヶ月1回のミーティングのあと介護支援専門員の研修を行い向上を図る。外部研修に出席した方を講師に研修報告をする。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	津波後なので一方的に外部のボランティアの方の方からだけの交流であり自主的には行われたとはいえない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴して意見を尊重する様に努めている。 ・利用者が安心な生活出来る様に努めている。 ・利用者本人に直接聴いて心身状態を把握している。 		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の来所時にはホームでの暮らしぶりや現在の状態についてお話をしている。 ・家族の要望等に耳を傾ける様に努めている。 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人に良い生活方法を見出す様に努める。 ・利用者様、家族の意見にしっかり耳を傾ける様に努めている。 		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の言動、行動を尊重し、共に生活していく様に努めている。 ・1人1人の利用者に耳を傾け共感する様に努めている。 		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の思いを汲取り、本人を支える様にしている。 ・家族と常に連絡を取れる様な関係を築いている。 		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・親しい方々が訪問された時は、ゆっくり談話される様に努めている。 ・家族の協力で外出したり外泊する機会がある。 	友達や親戚、子・孫など家族の来訪者が安否確認などのため震災前より多く来るようになり、出来るだけゆっくり落ち着いて話し合いが出来るよう支援しているほか、家族の協力の下で外出や外泊する機会をつくり利用者が楽しめるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人の性格を踏まえ孤立しない様に努めている。 ・個々の性格、行動等を把握して快適な生活出来る様に努めている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・適切な情報提供が行える様に心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりが個々の希望、意向を汲取り、支援を出来る様に努めている。 ・本人の思いが汲取れる様に寄り添い支援している。	センター方式や要望カードを用い、日常の所作、表情から本人の思いの把握に努めている。特に平成20年度からのセンター方式の本格導入により家族背景や家族・本人の意向、本人の変化動向が一目瞭然で情報も共有され本人本位の支援が出来るようになったとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・センター方式を共有して見解の統一。 ・家族等からの情報を聞き本人の意向に沿える様に努めている。 ・基本情報を基に理解している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・申し送りノート、チャートを見て体調の変化や日々の過ごし方を把握する。 ・個人の暮らし方を重視し心地よく過ごせる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・月1回のケアマネと居担のカンファレンスで評価を行ってケアの意見交換をして介護計画を作成している。	ホームの特徴は、利用者3人に対し職員2名を居室担当として配置し、利用者の心身の状況など、状況変化を複数の職員で確認し、話し合い評価しながら利用者本人にとって最もよいと判断するケアプランの作成に心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の気づいた事など毎日の介護記録に記入して引継ぎをしっかりとしている。 ・月1回のケアマネと居担とで計画の見直しや修正を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・状況に応じて可能な限り通院、買物、美容院等対応している。 ・季節の衣類交換や仏事代行等。 ・定期的に理容師やマッサージ師を招いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・車椅子。ベッドの提供、救急時の受診。 ・地域ボランティアの協力を得てレクリエーションの参加を呼び掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ホーム嘱託医を指定医としている。他科によって他の医療機関を受診。 ・健康管理に留意して適時に対応している。 ・本人希望に沿ったかかりつけ医を持っている。	利用者の殆どがホームの嘱託医をかかりつけ医としており、又往診も行われ健康管理に配慮している。通院の際は看護職が付添い、その受診の前後には、家族に報告し安心・安堵するよう丁寧な対応に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・職員間で情報交換して入所者の体調変化等気づいたら看護の指示を仰いでいる。 ・看護は介護職員に対して利用者の健康管理や医療面での助言、相談、対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・医療機関、家族等と情報共有している。 ・必要な情報提供並びに病院関係者との情報交換を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・体調変化時の対応に家族と話し合いながら支援に取り組んでいる。 ・家族や本人の要望に近づいていける様に支援する。 ・ホームでの出来る事、出来ない事を見極め医療機関への意向を含め対応して行く。	重度化、看取りの対応方針を定め、入居時に説明し早い時期から利用者・家族の理解を得ている。全職員が看取りの経験をしており、「どんな状況でも、医療を必要とする痛みと苦しみがない限り対応する」という、姿勢と方針のもとで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルを基に研修の機会を設けている。 ・定期的に避難訓練を実施している。 ・消防署による心肺蘇生法研修の機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・災害時の避難方法について全職員が把握している。 ・近隣の方々に協力頂いて避難訓練の実施。	火災を中心として近隣住民の協力、支援を得ながら防災・避難訓練を実施してきたが、今回の大震災を踏まえ食糧の備蓄対応を図ると共に、停電対策として自家発電の整備を検討している。なお、スプリンクラーは今年度に完成予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の気持ちを尊重して言葉使い等、気を付けて対応している。 ・利用者様の尊厳を守りながら、利用者にあった声掛けをしている。 	理念に掲げる入居者の「意思・人格を尊重する」姿勢を基本とし、言葉遣いも、方言によってはきつく聞こえ、自信を損ねる恐れもあることから利用者の気持ちに合った言葉を選び笑顔で話しかけるようお互い注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で「何をどの様にしたいか？」を自己決定出来る様に努めている。 ・本人の行動は制限せずに傾聴する様に努めている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来る範囲で行動して頂いている。 ・本人の意見を尊重して希望に合うように支援している。 ・何時までもその人らしくいられる様に尊重して見守っていく。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴後のスキンケアやマニキュア等も楽しみの1つと捉えて行っている。 ・定期的に理容師に在所して頂きヘアカットや産毛剃りも行う。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の好みを把握して誕生日等にメニューに取り入れたりしている。 ・調理、盛り付け、片付けは強制せずに率先して行って貰っている。 	事業所は「美味しいものを食べさせたい」の方針のもと、そのため買い物、ホームの菜園の収穫物の利用、味付け、盛り付け、後片付けなどの中で、自分の役割を生かしたり、作業中にお互い声を掛け合ったり、食事中話合いをしたりして、食事するまでのプロセスを通じて美味しい食事の支援に心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・体調に合わせて摂取出来る様に工夫している。 ・寝たきりの方には、夜間も水分補給を行っている。 ・個々に合わせて摂取量を調整している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後歯磨き、義歯洗浄、声掛け、見守り、介助。 ・毎食後の口腔ケアを支援している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄パターンの把握と声掛けにて介助。 ・トイレ誘導をしながら自立に向けた支援をしている。 ・個人の尿便チェックシートを利用してトイレ誘導に努めている。 	適時のトイレ誘導の支援や、大腿筋力アップを図る取り組みなどで自分で歩くようになり、自分で排泄できる自信につながり、ポータブルやリハビリパンツを使わなくなった利用者など、効果的な自立支援の取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・調理の工夫、起床時の牛乳摂取、水分補給 ・散歩、家事活動、機能訓練で自然排便促す。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・体調や気分柔軟に対応して無理強いはない。 ・全て希望に沿える事は出来ないが入浴を楽しめる様に支援している。 	入浴は週2回程で、気の合った人同士で入浴したり、時には職員と一緒に入浴し利用者に向き合いじっくりと話し合うこともあるとしている。入浴を嫌がる利用者は親しい方と一緒に入浴したり、利用者のその日の体調や気分に応じ柔軟に入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・その人が心地良くいられる様に寝たい時はホールや居室で臥床して頂く。 ・個々の状況に応じて休める様に支援している。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は入居者全ての薬の目的、用法等を理解する様に努めている。 ・体調変化や毎日のバイタルチェック表や表情を伺っている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の手伝い、片付け、洗濯干し等、本人の役割と率先して行っている。 ・レクや機能訓練等や声掛けして行っている。 ・個々の役割に応じた支援をしている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・施設周辺の散歩、バスハイク又は外食を楽しまれる様に支援している。 ・個人個人の希望に沿って買物や散歩等の外出が行われている。 	利用者の希望に応じ天気の良い日は散歩や買い物に出かけたり、時に山田町内の道の駅や釜石市にある釜石観音などに出かけ、外食を楽しむ遠出をすることも。遠出の際は、職員が付き添い安心、安全に配慮している。出身地に行くこともあったが、震災後は行く機会がなくなったとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者1人1人の状況に応じて支援している。 ・自己管理出来る方もいるので外出時等の買物が出来る様に支援している。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の意向もあるが本人の希望があれば何時でも出来る。 ・手紙や年賀状も代行している。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ホールで談話したり歌を歌ったりして楽しく過ごせる様に努めている。 ・ホール内にキッチンも設置されているので家庭と同じ様な雰囲気を味わう事が出来る。 	居間・食堂兼ホールには広い窓から自然採光が入り、周辺の四季の表情が見られ、快適な共用空間になっている。周りにはソファが多く置かれ、気の合った者同士が座り歓談している。懐かしのメロディーが流れ、利用者と職員が歌っているなど、日中は皆和気藹々と楽しみながら居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファに座って気の合う同士で話している。 ・ホール内で談笑したりテレビや音楽鑑賞したりゆったりと過ごしている。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・使い慣れた物を使用しながら安全に配慮して工夫している。 ・本人が気に入っている様に配置して職員が勝手に移動しない様に心掛けている。 	自分が利用していたベッド、ダンス、テレビを持ち込み、家族写真やカレンダー等を飾り、編み機を持ち込み作品を創っているほか、毎日掃除をし清潔を保ち、居心地の良い居室を作っている。各居室に温度計とエアコンを備え付け常に室温と健康管理に注意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の掃除や台所の後片付け等、声掛けて協力して頂いている。 ・1人1人の能力に応じて出来る事を手伝う。 		